

女子力とは、結局、人間的総合力であった

# 「女子力」の前に、オトコは邪魔か？

女性たちがいろいろなジャンルでテキパキと道を切り拓いている。軌道修正を突きつけられた世のオトコは、どう考えるべきなのか？

反発か？ さもなくば反省か？

同性の情けなさを『男は邪魔！』で著した高橋秀実さんに聞いた。

ノンフィクション作家

## 高橋秀実

●たかはし・ひでみね 1961年横浜市生まれ。東京外国語大学モンゴル語学科卒業。『ご先祖様はどちら様』で小林秀雄賞、「弱くても勝てます」開成高校野球部のセオリー』でミズノスポーツライター賞優秀賞を受賞。

### 「女子力」は能力、「男子力」は？

私が二十代のころ、男女雇用機会均等法が施行され、やがて「ジェンダー・フリー」が盛んに叫ばれるようになりました。ジェンダーをフリーにする。「男らしさ」「女らしさ」という役割意識は、人間を抑圧するから、それから解放されるべきだと

——。もつともな話ではあるんですが、「じゃあ、どうすればいいのかわからないのか」というその先の道筋がよくわからなかったんですね。「自分らしさ」とかいうようになりましたが、みんなが自分らしく生きようとしたら、それこそ接点がなくなっちゃいますもんね。

めは「女らしさ」に逆戻りしたんじゃないかと思っただけです。聞いてみると、要するに身なりを整え、家事が得意、周囲に気配りができるということみたいですからね。かつての「女らしさ」を「女子力を磨く」「女子力アップ」などと言いつつ、磨くだけなんじゃないかと。

でもよくよく考えると、これ、ぜんぜん違うんですね。「女らしさ」

のほうはそのまま人格全体にかかわってきますが、「女子力」は一つの能力にすぎない。個性や行動を束縛するものじゃなくて、むしろ武器なんです。利用する道具として人格から切り離されている。「役割」を

滑にできるんですから。はつきり言うてしまえば、人間として優れているということですよ。

「能力」に変換したんですよ。そうすると、女性は「女子力」を使っても使わなくてもいい。場面に応じて臨機応変に発揮すればいいわけで、極端な話、男が「女子力」を持っていてもいいわけです。「俺、結構、女子力あるぜ」みたいに。「あいつ女子力あるから、あいつに頼んだほうがいいんじゃないか」とか。つまり「女子力」というのは、

その点、「男らしさ」のほうは「男子力」となりえるか？ そもそも「男らしさ」って何だったんでしょうか。「泣かない」とか「一つの物事に没頭する」とか。武士に「言はない、というように無駄口は叩かず、一度言ったことは必ず実行する」ということなんじゃないか。

性差とは無関係に、人間として優れた能力ということなんです。だって身の回りをきれいにしたり、生きるために絶対に必要な食事をつくったり、周囲に気を配って人間関係を円

滑にできるんですから。はつきり言うてしまえば、人間として優れているということですよ。

「あいつ女子力あるから、あいつに頼んだほうがいいんじゃないか」とか。つまり「女子力」というのは、性差とは無関係に、人間として優れた能力ということなんです。だって身の回りをきれいにしたり、生きるために絶対に必要な食事をつくったり、周囲に気を配って人間関係を円

滑にできるんですから。はつきり言うてしまえば、人間として優れているということですよ。

「あいつ女子力あるから、あいつに頼んだほうがいいんじゃないか」とか。つまり「女子力」というのは、性差とは無関係に、人間として優れた能力ということなんです。だって身の回りをきれいにしたり、生きるために絶対に必要な食事をつくったり、周囲に気を配って人間関係を円

滑にできるんですから。はつきり言うてしまえば、人間として優れているということですよ。

滑にできるんですから。はつきり言うてしまえば、人間として優れているということですよ。